

## 震災における被害の実情と社会構造 仙台調査の計量分析

Damage by the Great Earthquake and Social Structure:  
Quantitative Analysis of 2011 Sendai Survey

村瀬 洋一

(立教大学社会学部)

### ◆ 主な分析内容 Main Analysis

- 従業員規模の効果 Effect of the Scale of Employees Organization  
小企業勤務者が不安感大、という関連があるか
- 人間関係保有の効果 Effect of the Social Relation

これは学会時のスライドに英語を加え少し改訂したものです

## 1. はじめに

### 1.1. 研究目的 Purpose

- ◆ 震災による損害金額や、不安感  
規定要因は何か On Analysis of Amounts of damages, and anxieties of future lives. What are the determinants of them?
- ◆ 仙台市 —被災地唯一の大都市だが、津波被害や中心市街地での建物被害は目立たない
- ◆ 沿岸部人口は1%未満
- ◆ だが、人々の被害の格差はあるか
  - 日本は平等で階層が目立たない → 格差なし
  - 階層(従業員規模や学歴)による格差あり

Fig 1. I feel uneasy about the future life.

Agree -- Somewhat agree -- Somewhat disagree -- Disagree

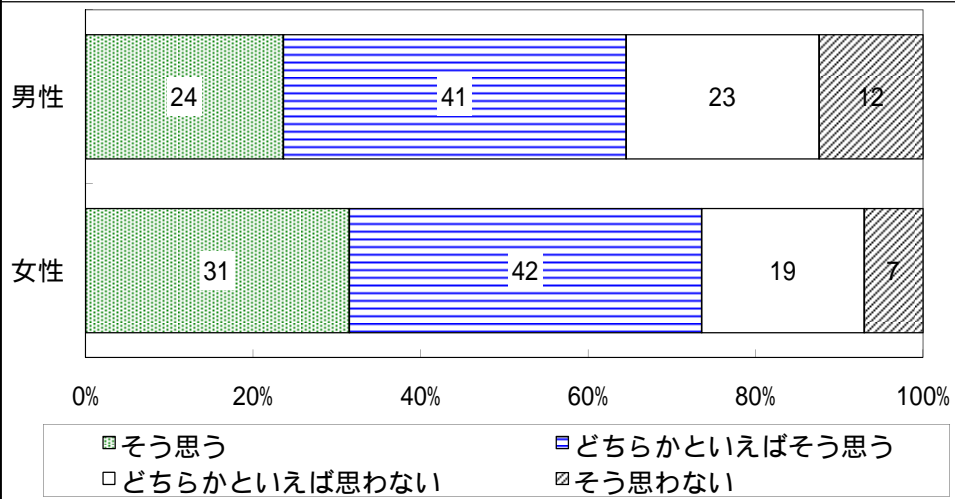


図1. 今後の生活に不安を感じる

Fig 2. Amount of damage caused by the earthquake: Japanese Yen.

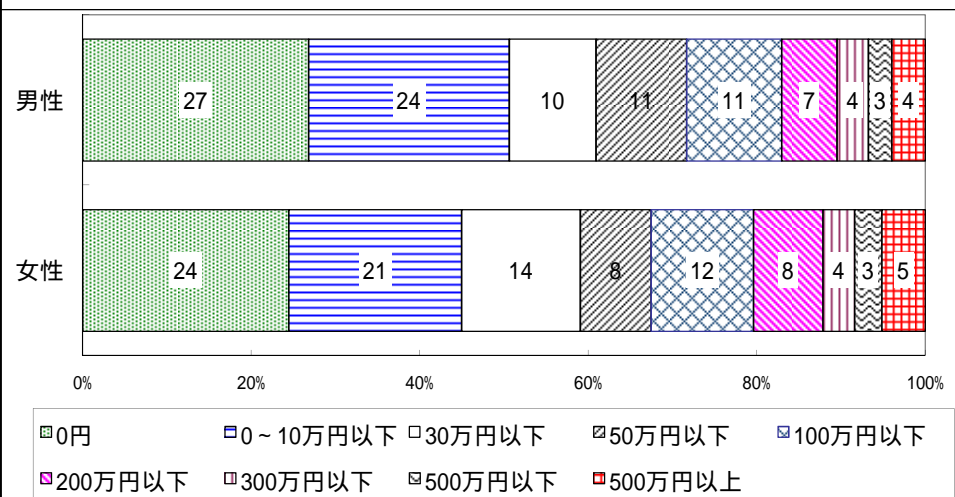


図2. 震災による被害金額

## 1.2.日本の社会階層とは

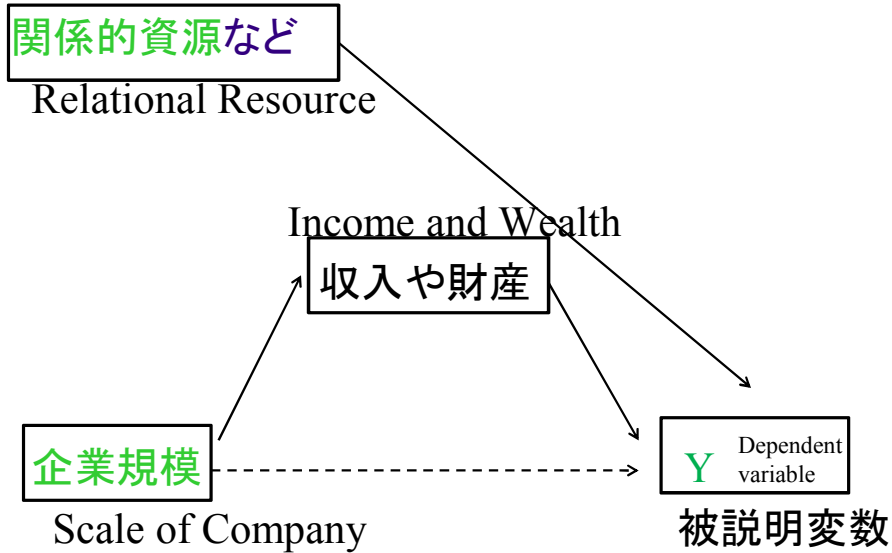
- 大企業に所属するかどうか  
高度成長期以降の目標 一流大学から一流企業へ
- 自営業という階層
- 高卒労働者層
- 关系的資源保有 地元の人、新住民  
地域密着型の生活か、転勤族か  
生活実態や意識に、さまざまな違い
- 都市度 ー日本の急激な社会変動  
政治的特徴、成長と平等の両立

## 1.2. Japanese Social Structure

- Belonging to large companies
- Self employed people
- High educated labor -- Low educated labor
- Possession of Relational Resource  
Old residence -- New comer
- Urban -- Rural Japanese rapid social change

### 1.3.分析の基本モデル

#### Basic Model



### 1.4.社会的資源の分類

#### ◆ Bourdieu & Passeron(1970)

- 経済資本 Economic Capital
- 文化資本 Cultural Capital
- 社会関係資本 Social Capital

#### ◆ 富永(1979)

- 物的資源 — 収入、資産
- 文化的資源 — 学歴、教養
- 関係的资源 — 政治的影響力、勢力

#### ◆ 資源を多く持つものほど地位が高い

生活にゆとりがあり、いい家に住んでおり、被害も少ないと予想

## 1.5. 主な仮説

◆ 階層 → 被害金額、不安感

- 収入よりも、従業先の規模が重要
- 学歴関連あり
  
- 人間関係という資源が日本において重要  
土着の人か、そうでないか
  
- 男女で違い
- フローかストックか  
収入と資産とどちらが重要か

## 2. 調査方法の概要 Survey Method

- 立教大学と東北大学河村准教授との共同調査  
調査会社に委託せず調査員を直接管理  
Conducted by Rikkyo Univ and Tohoku Univ
- 調査時期 2011年11～12月
- 母集団 仙台市全域で70地点を抽出  
20歳以上の男女
- 抽出法 層化三段確率比例抽出法  
対象世帯は現地で抽出
- 計画標本数 個人を抽出単位として2100人
- 回収率 Response Rate 73% N=1532人
- 総予算 約300万円  
今年度にパネル調査予定

### 3.分析結果

Fig 3. Future revenue will fall.

Agree -- Somewhat agree -- Somewhat disagree -- Disagree

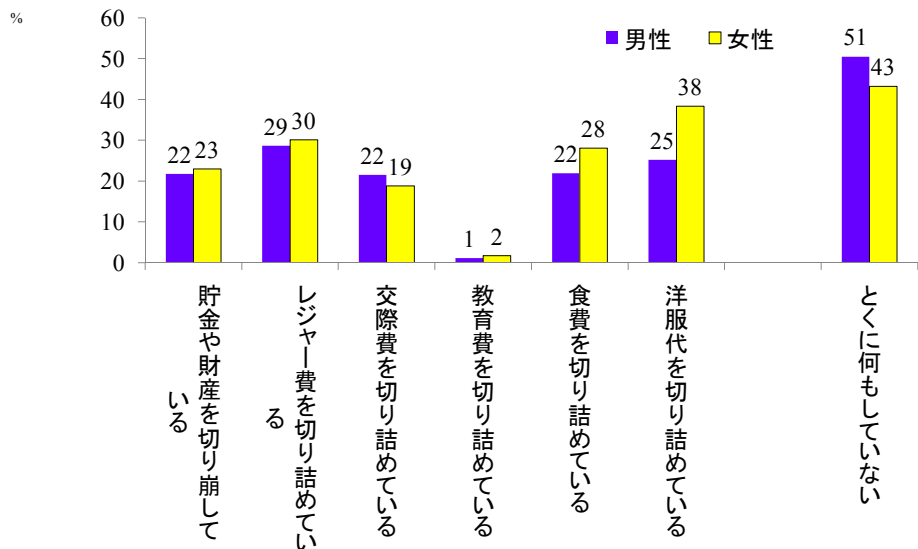
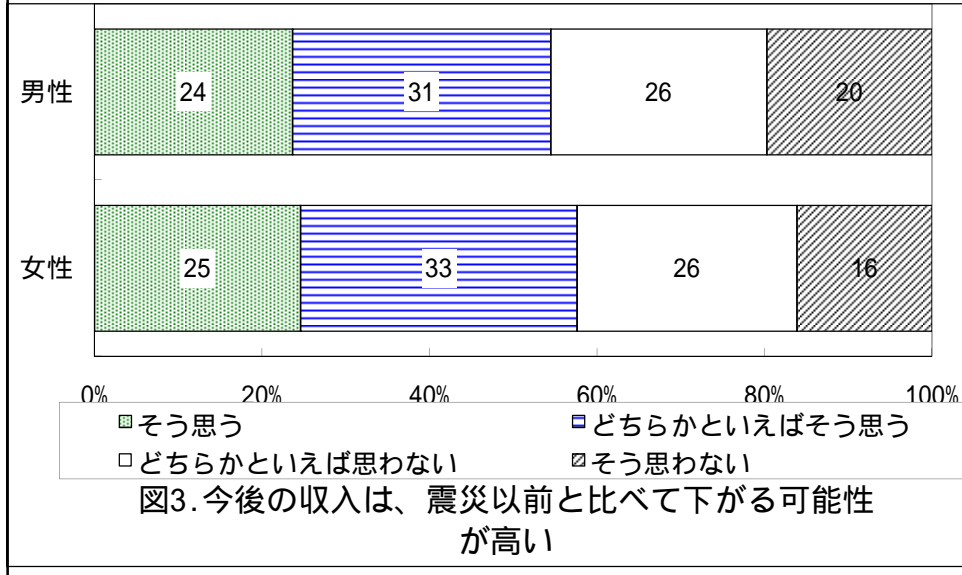
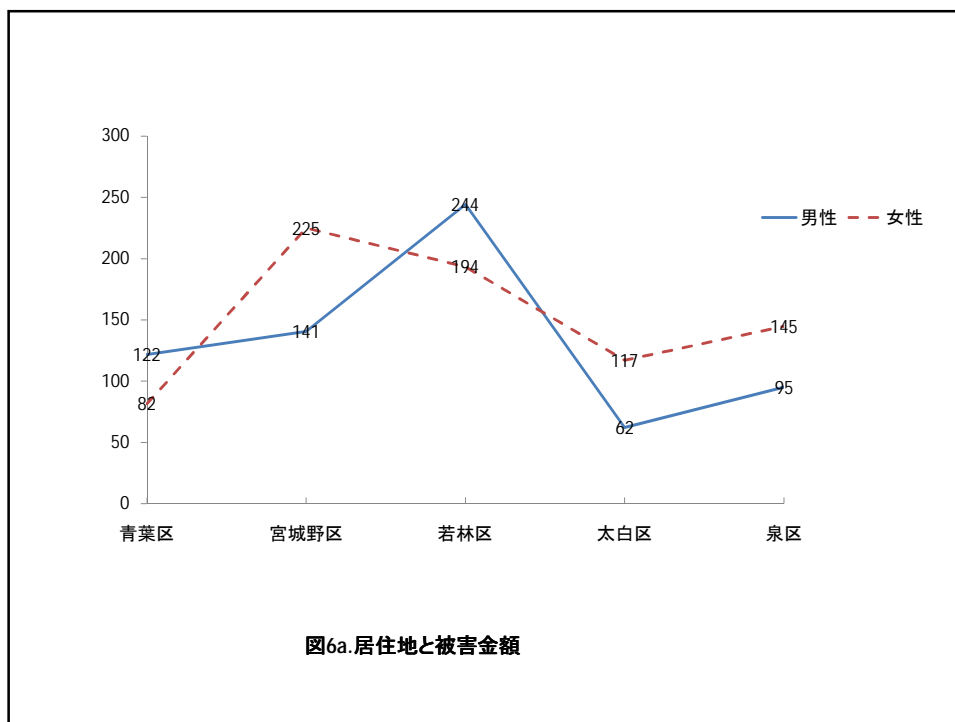
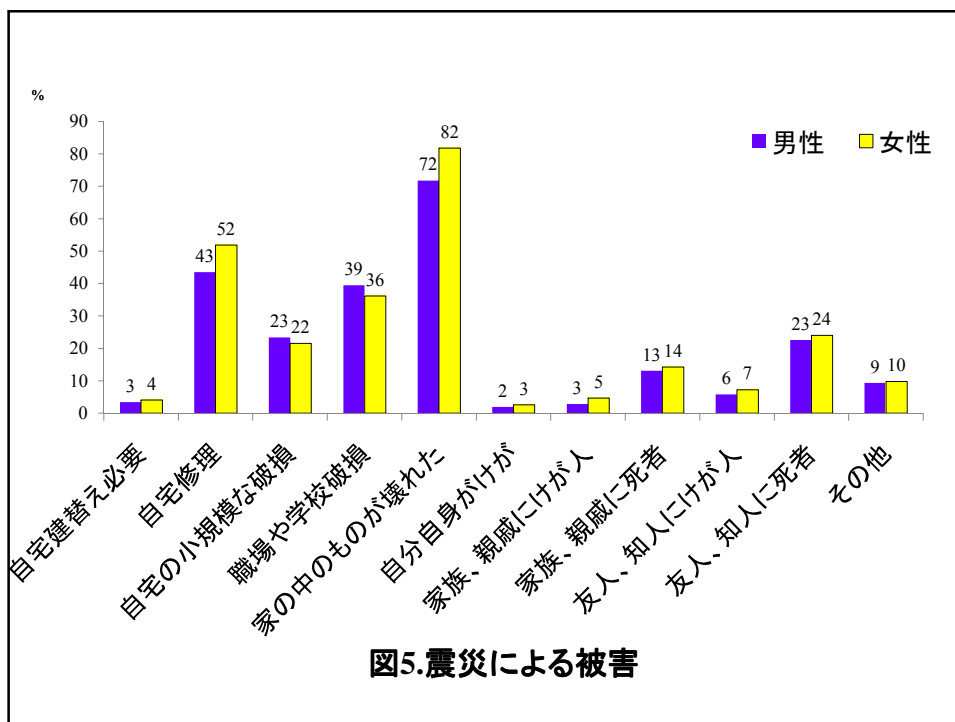
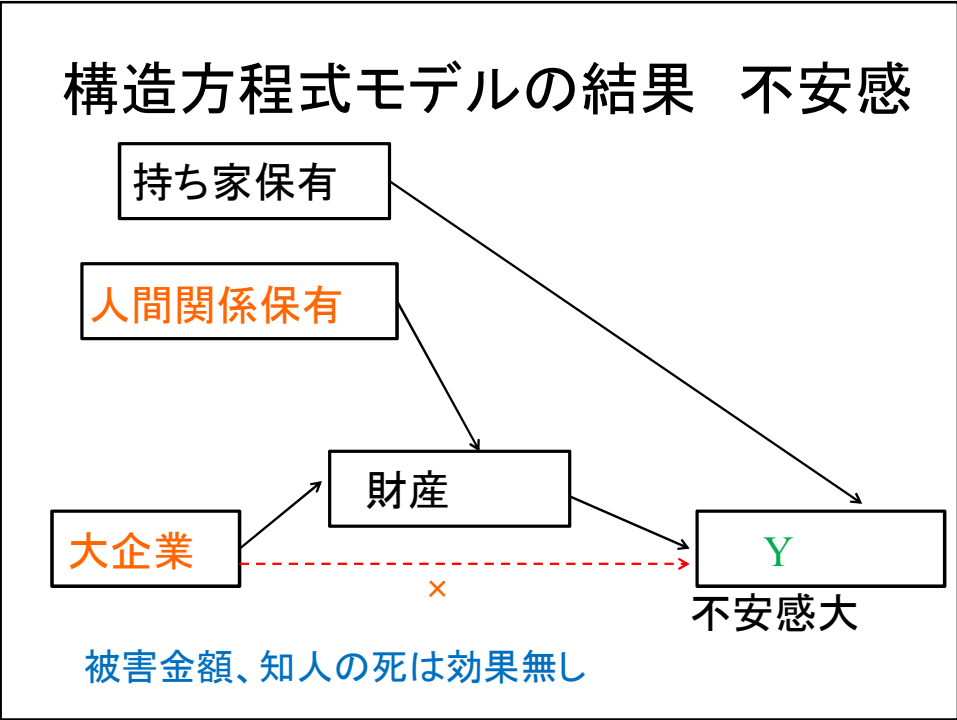
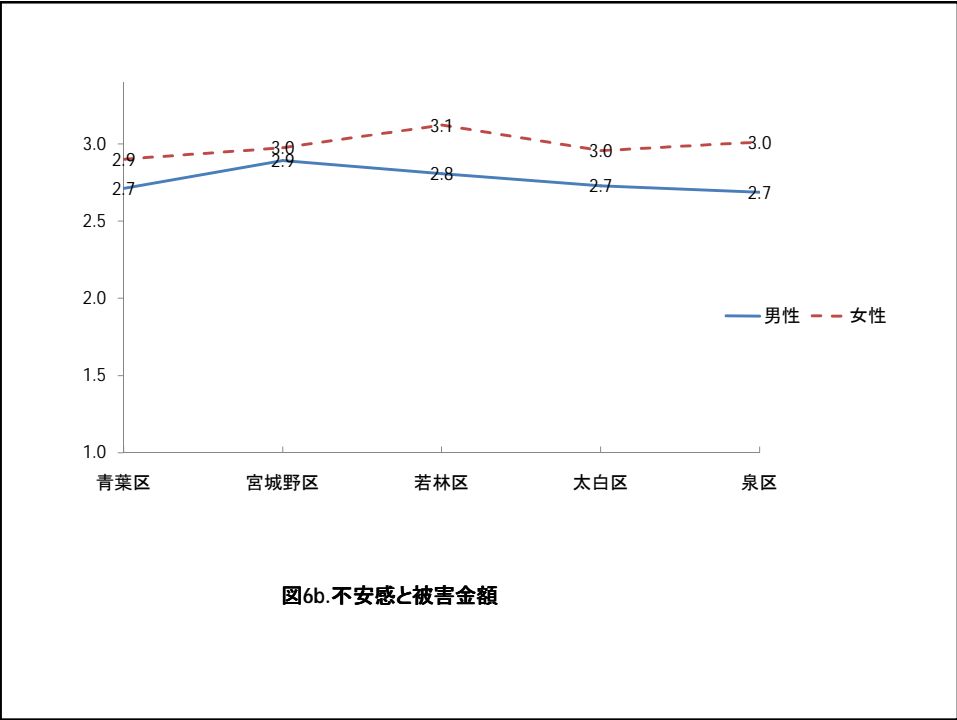


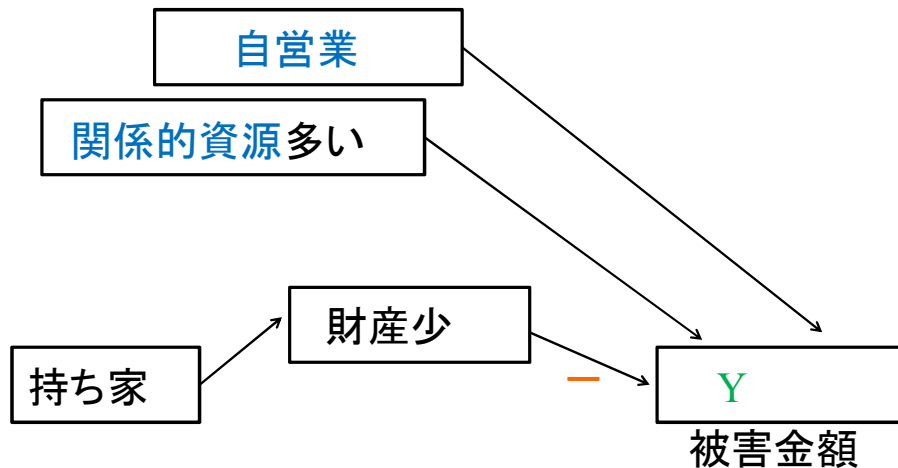
図4.最近の生活における支出の変化はありますか







## 構造方程式モデルの結果 被害金額 女性



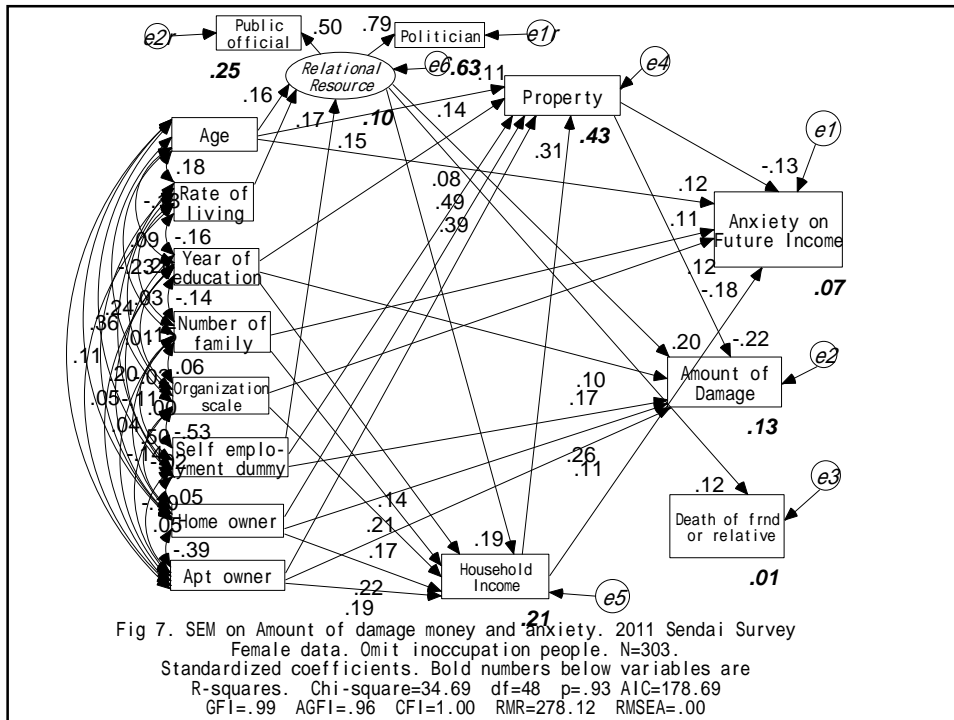
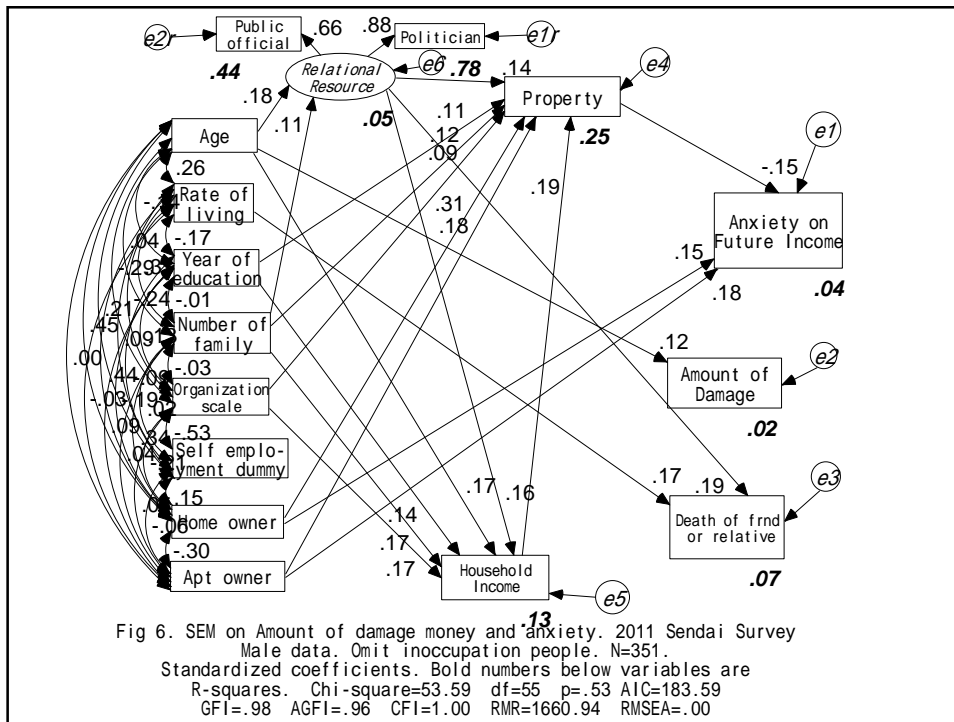
### 4. 結論

- ◆ 不安感 — 従業先規模による違いあり  
大企業ほど、資産が多いほど、不安感小  
条件のよい仕事、住宅、保険
- ◆ 被害金額は高齢ほど多
- ◆ **关系的資源**も重要
- ◆ 被害金額、知人死者は不安感に効果なし

- ◆ 高年齢→被害金額大きい
  - 女性 有職者に絞っているのが独特
  - 財産多い→被害金額少ない
  - 关系的資源多い→被害金額少ない
  
- ◆ 今後の課題
  - ・男女で異なる規定メカニズム
  - ・なぜ女性の大企業勤務者は不安感が強いのか
  - ・地域別の分析

## おしまい

- ◆ 以下は紙で配布



## Future Presentation Plan

- ◆ General Situation after the Earthquake
- ◆ Damage and Anxiety: Farther Analysis
- ◆ Political Attitude after the Earthquake
- ◆ Health Condition after the Earthquake
- ◆ Consumption and Economic Situation